

Vol.28

Graduation design presenter list '21

Suzuki Shingo	Yuko Homma	Maya Sekimoto
Hirata Suzuka	Misa Yoshida	Shoichiro Fuku
Narumi Takashi	Koki Watanabe	Takuya Hotta
Nao Takahashi	Nazuna Kobayashi	Maiko Mikami
Daiya Taguchi	Hiroki Shiotani	Kawaru Murata
Kazuki Narumi	Shunsuke Enokata	Shunsuke Morita

CONTENTS

2021年度「北海学園大学 工学部建築学科 設計作品集」

HOKKAI-GAKUEN UNIVERSITY ARCHITECTURAL DESIGN WORKS'21

subject	page	student no.	name	title		
卒業設計	4年生	02	4318124	鳴海圭祐 Keisuke Narumi	in the loop -複合化による循環型子育て支援- <2021年度北海学園大学工学部建築学科 最優秀作品> <近代建築別冊「卒業制作2022」掲載作品>	
		06	4318215	塩谷拓希 Hiroki Shiotani	換骨奪胎真駒内 <2021年度北海学園大学工学部建築学科 優秀賞作品> <2022年度日本建築学会「全国大学・高専卒業設計展示会」出展作品>	
		08	4318117	高崎菜々美 Nanami Takasaki	いなりの坂寄合所 ~失われゆく歴史を継承する建築~ <2021年度北海学園大学工学部建築学科 優秀賞作品>	
		10	4318115	新保涼音 Suzune Shimpo	コア-新たな時間市場の創出- (共同作品)	
		4318129	本間結子 Yuiko Homma	農活 ~都市近郊農業と支援のかたち~		
		4318116	鈴木 陽 Hinata Suzuki	Terminal: 炭都終着		
		4318120	高橋奈緒 Nao Takahashi	<北海道卒業設計合同講評会2022 審査員賞>		
		4318122	田口堤也 Daiya Taguchi	擁壁が繋ぐ内と外 ~擁壁内部空間の新提案~		
		4318139	吉田光沙 Misa Yoshida	雪が集う里-地域住民と共生するスキーリゾートの提案-		
		4318140	渡邊光喜 Koki Watanabe	原風景を覗く-都市緑地の活用と体験学習の場の創出-		
		4318211	小堀奈津菜 Nazuna Kobori	繋 ~札幌駅北口の地上と地下~ (共同作品)		
		4318231	三上舞子 Maiko Mikami	屯田改拓 ~屯田町の開拓的要素から導くまちの再編~		
		4318216	柴田駿介 Shunsuke Shibata	歩く駅前空間 ~地域に寄り添う交通拠点施設の設計~		
		4318219	関本真矢 Maya Sekimoto	機能分散化によるまちの顔づくり-西区琴似における行政・集会施設の設計-		
		4318226	福井彰一郎 Shoichiro Fukui	交わす嵐 とどまる街 ~漁業水産業に従事している外国人の拠り所を地域と結び交流を促す~		
		4318229	堀田達也 Tatsuya Horita	水を紡ぐ科学館-水と人との密接な関係の再発見-		
		4318234	村田 堅 Kakeru Murata	感染か交流か-アフターコロナ社会を見据えた雑居ビルのあり方-		
		4318235	森戸駿輔 Shunsuke Morito			
		23	2021年度卒業設計提出者リスト			

subject	page	student no.	name	title	
造形演習 I	1年生1学期	24	4321232	南 祐那 Yuna Minami	問題用紙をモチーフとした平面構成
		4321215	武永蒼依 Aoi Takenaga	問題用紙をモチーフとした平面構成	
		4321223	西垣優衣 Yui Nishigaki	問題用紙をモチーフとした平面構成	
		4321112	佐藤智哉 Tomoya Sato	問題用紙をモチーフとした平面構成	
		4321213	鈴木 萌 Moe Suzuki	季節をテーマとした自画像	
		4321212	渋川亜勉 Atomu Shibukawa	季節をテーマとした自画像	
		4321101	有村萌花 Moka Arimura	季節をテーマとした自画像	
		4321106	奥村 怜 Ryo Okumura	光をテーマとした平面構成	
		4321120	高溝ありさ Arisa Takamizo	光をテーマとした平面構成	
		4321235	山本大夢 Hiromu Yamamoto	光をテーマとした平面構成	
		4321211	佐藤拓音 Takuto Sato	コラージュを主体とした平面構成	
		4321132	室 杏佳 Kyouka Muro	コラージュを主体とした平面構成	
		4321122	谷紗矢乃 Sayano Tani	コラージュを主体とした平面構成	
		4321110	佐々木陸久 Riku Sasaki	コラージュを主体とした平面構成	

subject	page	student no.	name	title	
造形演習 II	1年生2学期	26	4321211	佐藤拓音 Takuto Sato	コラージュを主体とした平面構成
		4321132	室 杏佳 Kyouka Muro	コラージュを主体とした平面構成	
		4321122	谷紗矢乃 Sayano Tani	コラージュを主体とした平面構成	
		4321110	佐々木陸久 Riku Sasaki	コラージュを主体とした平面構成	
		4321136	吉田拓海 Takumi Yoshida	身の回りのモノをモチーフとした細密画	
		4321222	中村 龍 Ryu Nakamura	身の回りのモノをモチーフとした細密画	
		4321116	菅澤 翠 Midori Sugasawa	身の回りのモノをモチーフとした細密画	
		4321210	佐々木聖矢 Seiya Sasaki	建築と私をテーマとした立体構成	
		4321231	真鍋孝輔 Kosuke Manabe	建築と私をテーマとした立体構成	
		4321233	村中啓剛 Keigo Muranaka	建築と私をテーマとした立体構成	

subject	page	student no.	name	title	
空間デザイン演習基礎	2年生1学期	28	4320230	中山 碧 Aoi Nakayama	個人課題 / 「スツールのデザインと制作」 / 発想と寸法と強度
		4320132	中田彩太 Ayata Nakata	個人課題 / 「スツールのデザインと制作」 / 発想と寸法と強度	
		4320143	山田祥平 Shohei Yamada	個人課題 / 「スツールのデザインと制作」 / 発想と寸法と強度	
		4320208	太田滉一 Koichi Ohta	個人課題 / 「スツールのデザインと制作」 / 発想と寸法と強度	
		4320133	中村千陽 Chiharu Nakamura	最終課題 / 「待つ+」 / シャトルバスバス停デザイン	
		4320242	山下 建 Takeru Yamashita	最終課題 / 「待つ+」 / シャトルバスバス停デザイン	
		4320238	本山敦崇 Nobutaka Motoyama	最終課題 / 「待つ+」 / シャトルバスバス停デザイン	
		4320230	中山 碧 Aoi Nakayama	最終課題 / 「待つ+」 / シャトルバスバス停デザイン	
		4320147	渡邊竜馬 Ryoma Watanabe	最終課題 / 「待つ+」 / シャトルバスバス停デザイン	

subject	page	student no.	name	title	
空間デザイン演習 I	2年生2学期	30	4320120	佐々木優真 Yuma Sasaki	カフェ・テラス
		31	4320238	本山敦崇 Nobutaka Motoyama	カフェ・テラス
		32	4320136	福田涼太 Ryota Fukuda	小課題「住宅をさがそう」
		4320205	井上洗平 Kohei Inoue	小課題「住宅をさがそう」	
		33	4320102	秋山果澄 Kasumi Akiyama	住宅
34	4320214	木村凌雅 Ryoga Kimura	住宅		

subject	page	student no.	name	title	
空間デザイン演習 II	3年生1学期	35	4319136	湯田 葵 Yuda Aoi	デザイン・スクール
		36	4319205	大畠悠介 Yusuke Ose	デザイン・スクール
		37	4319118	鈴木瑛美 Eimi Suzuki	小課題「建築作品をさがそう」
		4319202	池野瑠里子 Ruriko Ikeno	小課題「建築作品をさがそう」	
		38	4319118	鈴木瑛美 Eimi Suzuki	テナント・ビル
39	4319236	渡邊智帆 Chiho Watanabe	テナント・ビル		

subject	page	student no.	name	title	
建築デザイン論	3年生1学期	40	4319202	池野瑠里子 Ruriko Ikeno	光の入り口
		4318134	武者凌平 Ryohei Musha	camera obscura	
		4319205	大畠悠介 Yusuke Ose	海底0マイル	
4319212	塩野谷基悟 Kisato Shionoya	Light hideout			

subject	page	student no.	name	title	
空間デザイン演習 III	3年生2学期	42	4319205	大畠悠介 Yusuke Ose	アート+建築=X
		43	4319236	渡邊智帆 Chiho Watanabe	アート+建築=X
		44	4319212	塩野谷基悟 Kisato Shionoya	電車通りの「みんなの家」
		45	4319236	渡邊智帆 Chiho Watanabe	電車通りの「みんなの家」

subject	page	student no.	name	title	
空間デザイン演習 IV	4年生1学期	46	4318124	鳴海圭祐 Keisuke Narumi	大通公園前の図書交流館
		47	4318216	柴田駿介 Shunsuke Shibata	大通公園前の図書交流館
		48	4318211	小堀奈津菜 Nazuna Kobori	光と邂逅する建築
		49	4318234	村田 堅 Kakeru Murata	光と邂逅する建築

subject	page	student no.	name	title	
第13回ガクナイコンペ2021	全学年	50	4319236	渡邊智帆 Chiho Watanabe	1等賞 3年生 (共同作品)
		4320246	渡辺倫大 Tomota Watanabe	1等賞 2年生 (共同作品)	
		6320102	渡邊憲成 Kensei Watanabe	2等賞 大学院修士2年生	
		6320101	三浦光雅 Mitsumasa Miura	3等賞 大学院修士2年生	
		4321222	中村 龍 Ryu Nakamura	学年賞 1年生	
		4319212	塩野谷基悟 Kisato Shionoya	学年賞 3年生	
		4318117	高崎菜々美 Nanami Takasaki	学年賞 4年生	

subject	page	student no.	name	title	
2021年度コンペ入賞作品		52	6320101	三浦光雅 Mitsumasa Miura	第46回「北の住まい住宅設計コンペ」最優秀賞 修士2年生
		4319212	塩野谷基悟 Kisato Shionoya	第46回「北の住まい住宅設計コンペ」優秀賞 3年生	
		6320102	渡邊憲成 Kensei Watanabe	第46回「北の住まい住宅設計コンペ」奨励賞 修士2年生	
		6320101	三浦光雅 Mitsumasa Miura	第25回「ぐっとずっと。エネルギー住宅作品コンテスト」優秀賞 (共同作品)	
		6320102	渡邊憲成 Kensei Watanabe	修士2年生	
		4318117	高崎菜々美 Nanami Takasaki	修士2年生	
		4318134	武者凌平 Ryohei Musha	4年生	
		4318134	武者凌平 Ryohei Musha	[全国建築新人戦2021] 100選入選 3年生	
				[全国建築新人戦2021] 山田紗子賞 3年生	

subject	page	title	student no.	name	title	
2021年度学外活動		沼田町・JR石狩沼田駅舎セルフリノベーション	54	4318111	佐藤嵩太 Kouta Sato	4318137 山崎達矢 Tatsuya Yamazaki
			4318113	佐藤貴慶 Takayoshi Sato	4318138 山本 愛 Mana Yamamoto	
			4318120	高橋奈緒 Nao Takahashi	4318215 塩谷拓希 Hiroki Shiotani	
			4318123	鉄川 結 Yui Tetsukawa	4318222 武山怜央 Reo Takeyama	
			4318125	鳴海侑晟 Yusei Narumi	4318238 山下陽平 Yohei Yamashita	

subject	page	student no.	name	title	
修士設計		56	6320101	三浦光雅 Mitsumasa Miura	現代社会における新たな私的領域の探求 ~北海道札幌市の都市と郊外における住居形式のケーススタディ~
		58	6320102	渡邊憲成 Kensei Watanabe	アクティビティから解く集合住宅 -北海道江別市野幌地区における新たな共有空間を持つ集合住宅の提案-
		60	2021年度科目担当教員リスト		

Design Concept



Model Diagram 抜け空間

視線を固定しないゆとりを持った抜け空間を計画した。開放的で空間は抜けているが機能は凝がっている。



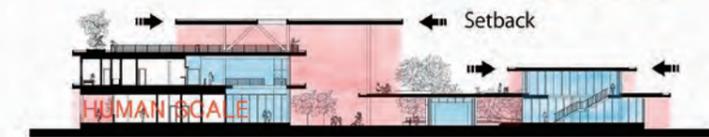
合理的な複合施設 ボリュームを分離する 隣の空間をデザイン

群造形と積層

群造形は全体を一体でありながら、異なるボリュームの集合として実数地全体をデザインした。各施設で異なる階高に合わせて屋根を調整させセットバックすることで圧迫感を軽減し、周辺環境との調和を目指した。また、屋根、テラス、デッキ、庭園など半外部空間により「都市スケール」と「ヒューマンスケール」が共存する建築を目指した。

URBAN SCALE

Setback



ヒューマンスケールから周辺環境の調和を図る。抜け空間は各施設のボリューム感を調整する機能も持つ。



ボリュームを分離し、隣接する各施設間の半外部空間をゆとりよく確保する。周辺環境との調和を目指した。

Facade Design 二面性



町外利用者の多い街道がある北側は、まちの賑わいや子育て支援などまちの取り組みを近隣の市町村に発信する機能も担っている為、視線を引きつけるようなまとまりのある外構とした。一方、住宅地がある南側からは各施設単位でボリュームを分離し、周辺環境に馴染むような外構計画を行った。

Floor Plan 1F Plan 1/300



抜け空間の使いかた



2F Plan 1/300



抜け空間の使いかた



Open Space 半屋外空間



Event 非日常時の利用



広場では、お祭り・キッチンカー・移動図書館・トラック演劇・自転車レース・献血など様々なイベントに対応可能である。地域利用時(発表会やお遊戯会等)には、開放しエントランス広場までシームレスに繋がり、空間が一体化する。町民の多拠点で社会的身体スケールに配慮したまちのリビングのような建築空間である。また、各施設の休館日の際でも広場を解放することでコミュニティや交流を継続し、町民の居場所を提供する。

Vision 展望

要望として、利用者を最優先に考えた好望期から子育て期にわたる切れ目のない子育て支援により、この施設で生まれ育った子供が将来ここで働くようになるような循環を生む。この町が子育て支援のプロトタイプとして地方創生に貢献出来る施設になることを目指す。

敷地面積	21596.97 m ²
建築面積	2569.72 m ²
延床面積	3896.99 m ²
階数	地上2階
構造	鉄骨造 鉄筋コンクリート



River City Site Nature

新保涼音 4318115
Suzune Shimpo
本間結子 4318129
Yuiko Homma

コア 新たな時間市場の創出

背景と目的
北海道観光の現状として、夏季と冬季の観光客入込数に大きな差がある。夏季は避暑地として国内外から多くの観光客が北海道を訪れるが、冬季の観光客数は夏季の半数以下となっている。加えて、観光地域において観光客の活動時間が12時~15時に集中しているため、季節・時間によって観光客数に差が生じている。近年では、旅行先で製品を購入して使用することなどのモノ消費に比べて、食事や温泉、自然体験などのコト消費への満足度が高まっていることから、地域資源を活用した観光地づくりを考える。これらの北海道観光の課題に着目して、観光資源の豊富な北海道支笏湖支笏湖畔に位置する商業施設の設計を行った。

コンセプト
観光客を最初に迎え入れ、そこからまた出発する地域の核(コア)となる施設
支笏湖畔の玄関口に位置しているため、観光客の支笏湖滞在の拠点となり、ここからアクティビティに出かけたり、ビジターセンターに支笏湖を取り巻く自然環境を学びに行く。そしてまた、ここに戻ってレストランやテラスで一息つく。人により異なる行動パターンに寄り添い地域のコアとなる存在を目指す。

敷地 千歳市支笏湖国立公園
敷地面積/2004㎡
敷地全体高低差/3600mm
計画敷地は傾斜地に立地する支笏湖温泉街の商店街としており、バスの停留所や駐車場、湖に近い広場、アクティビティ利用のための桟橋、また、温泉ホテルである鶴舞リゾートや支笏湖ビジターセンターの間に位置するため方向からのアクセスが考えられる。
現在、対象敷地である支笏湖温泉の商店街エリアは飲食、物販、アクティビティ体験のガイドハウス、などが建ち並んでいるが、景観の観点からみると奇抜な配色が目立つため、周辺の施設や自然との一体感が見られないことが問題として挙げられる。

鈴木陽 4318116
Hinata Suzuki

農活 ~都市近郊農業と支援のかたち~

農業と設計の背景
現在、農業は「農業従事者人口の減少」、「農業従事者の高齢化」、「新規参入のハードルの高さ」が問題となっており、慢性的な人手不足が発生している産業である。そこで私は、スマート農業などの技術で解決することも大切ではあるが、若年層が農業に従事したいと思えるような体験を幼い時にすることや環境作りも大切なのではないかと考えた。人口の推移と中山間地域では少子高齢化、人口減少が都市に先駆けて進行している。その結果、山間農業地域から都市的農業地域へ人口の割合が増加する予想であり、農業支援の観点から都市近郊地域を敷地とした「生活」の一部に農作業が入るような施設提案をしたいと考える。

敷地
恵庭市中央公園(恵庭市中央町3丁目1-1)
恵庭市は市の約2/3が自然であり、残りの1/3に街が収まったコンパクトシティである。敷地は花の拠点「はなふる」道と川の駅「花ロードえい」向かいにある公園とする。平日の14時ごろに敷地調査を行ったが、道の駅は主婦の方や観光客、幼稚園などで賑わっていたのに対して中央公園は閑散としており利用者もランニングや散歩を行う、おおよそ50歳以上の方が多かった。
敷地周辺の状況としては敷地周辺や恵庭市の住宅では家庭菜園や庭造りに力を入れている住宅が多くあり、家庭菜園や庭づくりに意欲的な市民が多い印象を持った。また国道から一本入ると車が通ることも少なく静かな住宅街といった印象であった。
この敷地は「北北西」と「南南東」に風向が揃っており、やや南南東側の方が風の強い敷地である。今回は畑も計画するので国道側と西側の住宅街に土などで被害を受けないよう配慮が必要である。

ターゲット
「将来的に農業に従事したい」
「農業を日常的に楽しみたい」
「観光で農業体験をしたい」
という人をターゲットにする。

新たな時間市場の創出
従来の観光客は観光客のみに限らず、地元住民も観光客として訪れる。また、観光客は観光客として訪れるだけでなく、地元住民も観光客として訪れる。また、観光客は観光客として訪れるだけでなく、地元住民も観光客として訪れる。

設計内容
施設、アクティビティ体験、食事の場をもった観光施設
多用途なアクティビティ体験施設を設け、観光客だけでなく、地元住民も観光客として訪れる。また、観光客は観光客として訪れるだけでなく、地元住民も観光客として訪れる。

敷地
敷地面積/2004㎡
敷地全体高低差/3600mm
計画敷地は傾斜地に立地する支笏湖温泉街の商店街としており、バスの停留所や駐車場、湖に近い広場、アクティビティ利用のための桟橋、また、温泉ホテルである鶴舞リゾートや支笏湖ビジターセンターの間に位置するため方向からのアクセスが考えられる。

設計目的
「農業体験を通じて農業の楽しさを知りたい」、「農業を日常的に楽しみたい」、「観光で農業体験をしたい」という人をターゲットにする。

行える活動の違い
農業体験者の就業までの流れ
農業体験者の就業までの流れ

コンセプト
「農業体験を通じて農業の楽しさを知りたい」、「農業を日常的に楽しみたい」、「観光で農業体験をしたい」という人をターゲットにする。

体験できる内容
農業体験を通じて農業の楽しさを知りたい、農業を日常的に楽しみたい、観光で農業体験をしたい。

得られるサービス
農業体験を通じて農業の楽しさを知りたい、農業を日常的に楽しみたい、観光で農業体験をしたい。

炭都終着

背景 | 近代化遺産の保存と活用の現状

欧米諸国

日本国内

計画の対象地域 | 北海道美瑛市東部

■鉄道発達と人口分布の変化

■écomuséeの可能性

FOCUS: A0 PURPOSE: アイキャッチをつくる

FOCUS: B1 PURPOSE: 炭住を展望する視点を設ける

■ペーヴメントのデザインメカニク

FOCUS: A8 PURPOSE: まちを再編し、コアを設ける

擁壁が繋ぐ内と外

~擁壁内部空間の新提案~

Perspective

擁壁内部

地下のようで 地上のような 人工のようで 自然のようで 内のようで 外のようで 擁壁に囲まれた暖かな空間が交流を促す

Problem 1 交流

【コロナ禍で加速する地域との孤立】

インターネットの普及、コロナ禍により拍車がかかった近隣住人との交流減

井戸端会議、車庫でのBBQもめっきり見なくなり、寂しさを感じている方も多いのではないのでしょうか。

こんな生活に慣れていくにつれてコロナが収まった後も、地域としての交流が今後なくなってしまうのではないかと一種の危機感を感じています。

気づき 1

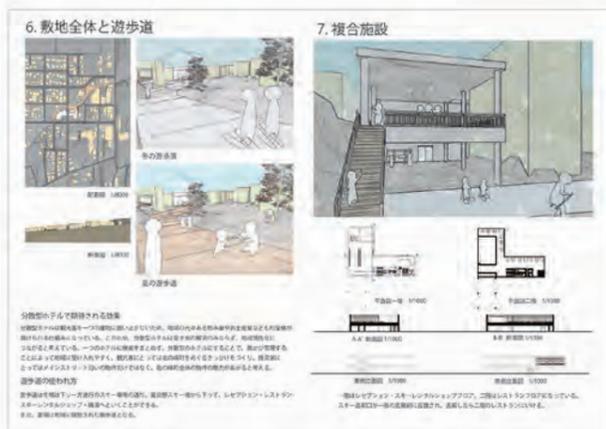
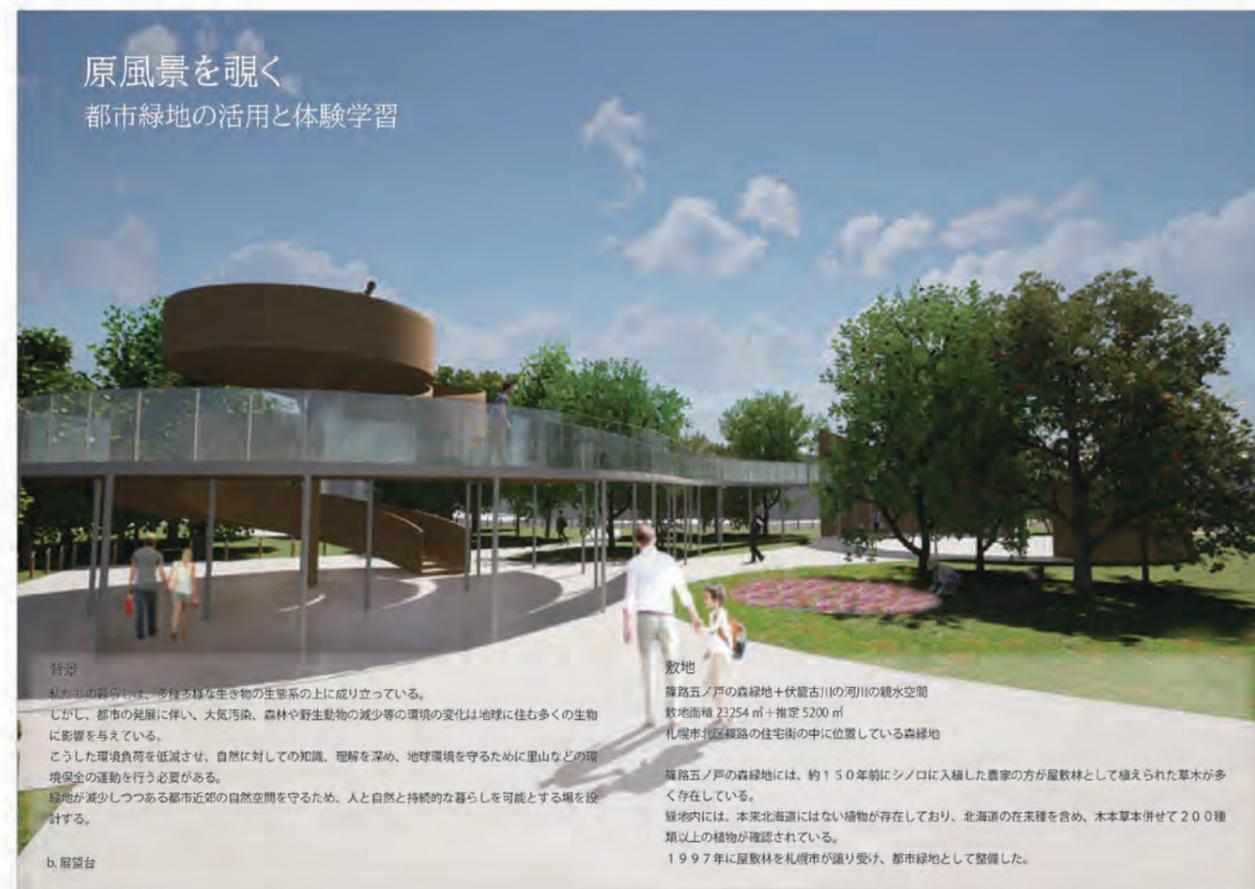
井戸端会議、車庫でのBBQのどちらも屋内とも外とも言えないような空間で行われているのではないかと?

自分のテリトリーでありつつも一本線を引いたような距離感の空間に交流のヒントが存在するのでは?

外

車や人の動線が擁壁内部で完結しているため擁壁上部には自然性と公園性を兼ね備えた空間が広がる

←からは外に →からは擁壁内部に繋がる窓により、昼は外の光を夜は内の光を擁壁内部に取り入れる





水を紡ぐ科学館

水と人との密接な関係の再発見

○concept

私たちに最も身近にあるものの一つ、「水」。普段何気なく様々な用途で使うが、水は一体何処から来て何処へ行くのかを私たちは深くは知らない。大枠に「人と水」というテーマを掲げて、その中に「森と川」、「山と海」、「海と森」の3つのテーマに沿った展示や体験を行うための提案。

○設計の背景

北海道に住む私たちは多くの自然に囲まれており、自然に触れる機会も多い。その中でも「水」は私たちの生活の中で最も身近で、最も使うことの多い自然由来のものである。しかし私たちに最も身近な存在の「水」について、水は何処から来て何処へ行くのかを知っている様で知らないことがあるのではないかと。



感染か交流か



交流か

アフターコロナ
を見据えた
雑居ビルのあり方

石橋研究室 4318235 森戸駿輔

現在世界中で問題視される新型コロナウイルスについて
様々な情報をもとに、建築的観点から問題解決を行う
2019年12月初旬、中国武漢市より原因不明の肺炎確認
以来、同市にて同症状患者の増加、市中感染確認
2019年12月31日世界保健機構（WHO）へ正式報告
2020年1月15日日本国内第一例目確認
これまで、日本国内感染者数270万人、死者数1.8万人確認
2020年3月11日WHOによるパンデミック宣言発令
その後、ウイルスは形を変え世界各国に拡散される
ウイルスの世界的流行は歴史的に見ても繰り返されている。
今回の新型コロナウイルス終息後
また新たなウイルスの世界的流行があると推測できる。
その際の「歓楽街の賑わいの創造」を目的とする。

平面計画

アクションメスをスペースに



風の流れを妨げないよう廊をレイアウトし、建物側面は同層メインの利便性を確保する。空利用のできない場合は同層上の階層を開けるレイアウトに配置する。建物表面は屋外空間の利用促進を促す。

面積表	裏	表	共用部
5階	216m ²	108m ²	27m ²
4階	216m ²	135m ²	27m ²
3階	216m ²	162m ²	27m ²
2階	216m ²	189m ²	27m ²
1階	198m ²	198m ²	108m ²
地階	216m ²	216m ²	108m ²

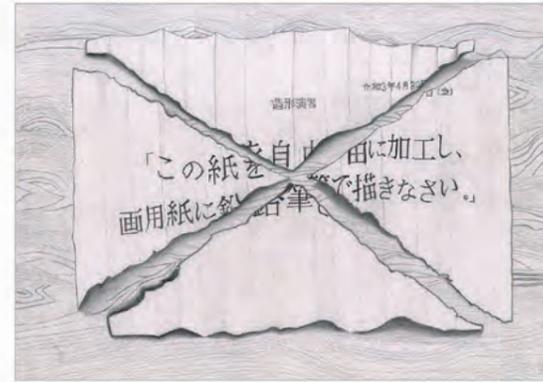
レントラブル比 87.6%
ポイドを設けることによりレントラブル比の向上を図る。

アクションメス 1/500

4318115	新保涼音	Suzune Shimpo	コア-新たな時間市場の創出-(共同作品)
4318116	鈴木 陽	Hinata Suzuki	農活 ~都市近郊農業と支援のかたち~
4318117	高崎菜々美	Nanami Takasaki	いなりの坂寄合所 ~失われゆく歴史を継承する建築~
4318120	高橋奈緒	Nao Takahashi	Terminal:炭都終着
4318122	田口堤也	Daiya Taguchi	擁壁が繋ぐ内と外 ~擁壁内部空間の新提案~
4318124	鳴海圭祐	Keisuke Narumi	in the loop -複合化による循環型子育て支援-
4318129	本間結子	Yuiko Homma	コア-新たな時間市場の創出-(共同作品)
4318139	吉田光沙	Misa Yoshida	雪が集う里-地域住民と共生するスキーリゾートの提案-
4318140	渡邊光喜	Koki Watanabe	原風景を覗く-都市緑地の活用と体験学習の場の創出-
4318211	小堀奈津菜	Nazuna Kobori	繋 ~札幌駅北口の地上と地下~ (共同作品)
4318215	塩谷拓希	Hiroki Shiotani	換骨奪胎真駒内
4318216	柴田駿介	Shunsuke Shibata	屯田改拓 ~屯田町の開拓的要素から導くまちの再編~
4318219	関本真矢	Maya Sekimoto	歩く駅前空間 ~地域に寄り添う交通拠点施設の設計~
4318226	福井彰一郎	Shoichiro Fukui	機能分散化によるまちの顔づくり-西区琴似における行政・集会施設の設計-
4318229	堀田達也	Tatsuya Horita	交わす掘 とどまる街 ~遠洋水産業に従事している外国人の拠り所を地域と結び交流を促す~
4318231	三上舞子	Maiko Mikami	繋 ~札幌駅北口の地上と地下~ (共同作品)
4318234	村田 駆	Kakeru Murata	水を紡ぐ科学館-水と人との密接な関係の再発見-
4318235	森戸駿輔	Shunsuke Morito	感染か交流か-アフターコロナ社会を見据えた雑居ビルのあり方-

① 問題用紙をモチーフとした平面構成

この紙を自由に加工し、画用紙に鉛筆で描きなさい。(素材は鉛筆)
紙のもつ性質と印刷された文字をうまく生かしながら表現すること。



① 南 祐那
Yuna Minami
4321232



① 武永蒼依
Aoi Takenaga
4321215



① 西垣優衣
Yui Nishigaki
4321223



① 佐藤智哉
Tomoya Sato 4321112

② 季節をテーマとした自画像

季節をテーマに自画像を描きなさい。(素材は鉛筆)
自画像の配置は自由ですが、画面に今の季節を感じさせる要素を必ず入れること。



② 鈴木 萌
Moe Suzuki 4321213



③ 奥村 怜
Ryo Okumura 4321106



② 渋谷 亜勉
Atomu Shibukawa 4321212



③ 高溝ありさ
Arisa Takamizo 4321120



② 有村萌花
Moka Arimura 4321101



③ 山本大夢
Hiromu Yamamoto 4321235

④ コラージュを主体とした平面構成

与えられた写真の中から2要素程度とりあげ、それらを主役とした画面を構成しなさい。(素材は自由)
コラージュしたものが画面の中で自然に存在するよう空間を描くこと。



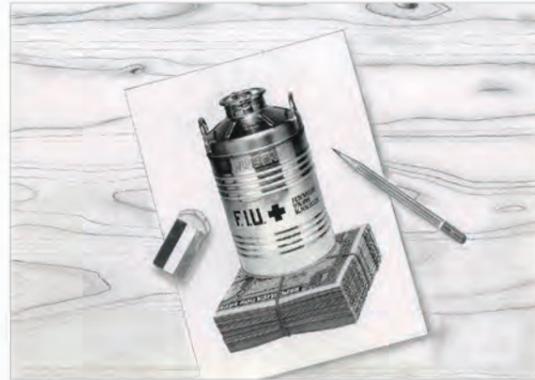
④ 佐藤 拓音
Takuto Sato
4321211



④ 室 杏佳
Kyouka Muro
4321132



④ 谷 紗矢乃
Sayano Tani
4321122



④ 佐々木 陸久
Riku Sasaki
4321110

⑤ 身の回りのモノをモチーフとした細密画

細密描写にふさわしいモチーフをあなたの身の回りから探し出し、平面構成しなさい。(着色)
全体のバランスというより、普段は面倒臭くて省略したくなるような細部に視点を向けること。



⑤ 吉田 拓海
Takumi Yoshida
4321136



⑤ 中村 龍
Ryu Nakamura
4321222



⑤ 菅澤 翠
Midori Sugawara 4321116

⑥ 建築と私をテーマとした立体構成

与えられた素材(スチレンボード、樹脂粘土)を最大限に生かし「建築と私」をテーマに自由に表現しなさい。(素材は自由)
但し、作品サイズは28cm×21cm×5cmの範囲内とする。



⑥ 佐々木 聖矢
Seiya Sasaki 4321210



⑥ 真鍋 孝輔
Kosuke Manabe
4321231



⑥ 村中 啓剛
Keigo Muranaka
4321233

個人課題

「ツールのデザインと制作」

《発想と寸法と強度》

背もたれのない腰掛け=ツールは、人の体重を支えるという極めて単純明快な機能を果たす。果たすべき機能がたったひとつであるが故に、存にデザインされたツールは無数に存在し、かつ、そのデザインの可能性は依然として無限に広がっている。
段ボールを材料として、発想と寸法と強度とが調和し、実際に座ることが可能なツールをデザインしてほしい。



中山 碧
Aoi Nakayama
4320230



中田彩太
Ayata Nakata
4320132

山田祥平
Shohei Yamada
4320143

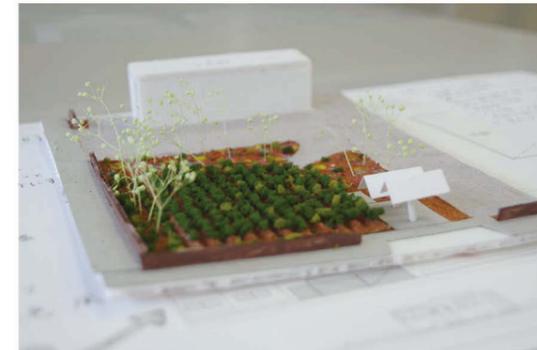
太田滉一
Koichi Ohta
4320208

最終課題

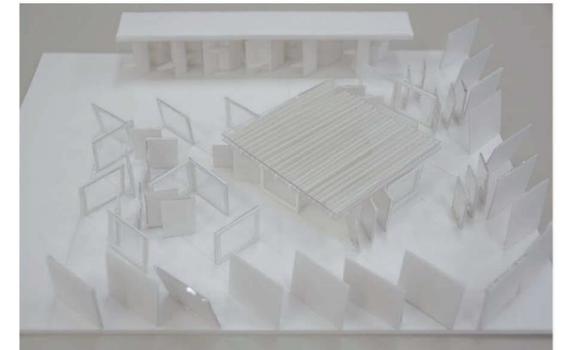
「待つ+」

《シャトルバスバス停デザイン》

山鼻キャンパスと豊平キャンパスとを繋ぐシャトルバスは、それが果たす役割について、概ね好評との情報が得られている。
しかし現状、バスに乗車する場所には、「待つ」という行為に対するなんらかの適切な配慮は乏しい。今後、空間と向き合っていく歩みのスタートとして、「待つ」という行為をじっくりと見つめ直し、あなたならではのバス停を創造してほしい。



中村千陽
Chiharu Nakamura
4320133



山下 建
Takeru Yamashita
4320242



本山敦崇
Nobutaka Motoyama
4320238



中山 碧
Aoi Nakayama
4320230



渡邊竜馬
Ryoma Watanabe
4320147

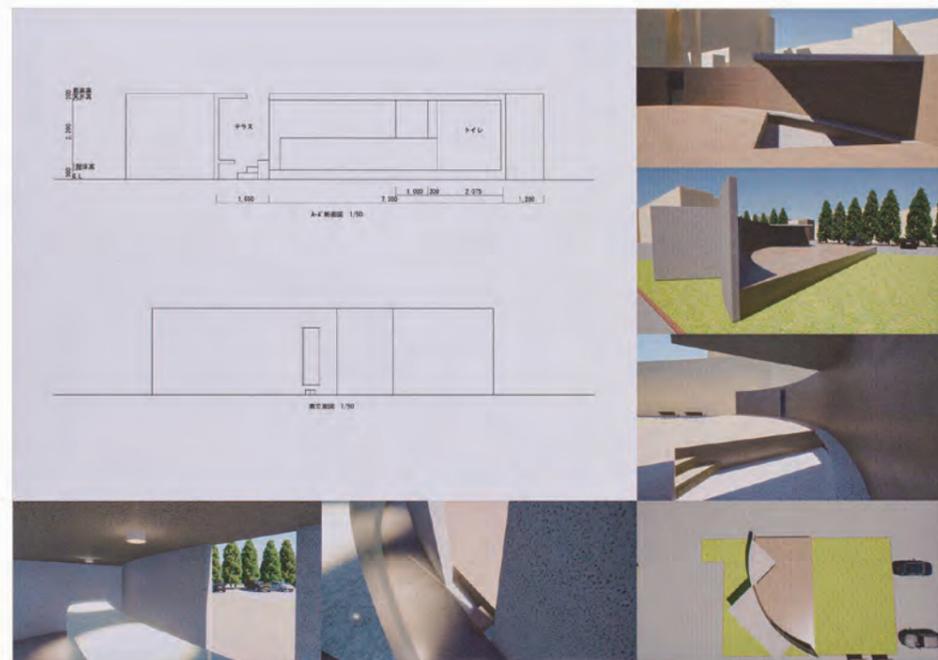
カフェ・テラス

工学部校地の一角に建つ学生・教職員のための「たまり場（カフェテラス）」の設計。敷地は東西12m×南北15m。床面積は50㎡程度まで。用途は喫茶を主とするが、作品展示コーナー、ミーティングルームなど、各自が必要と考えるスペースも自由に盛り込んでよい。

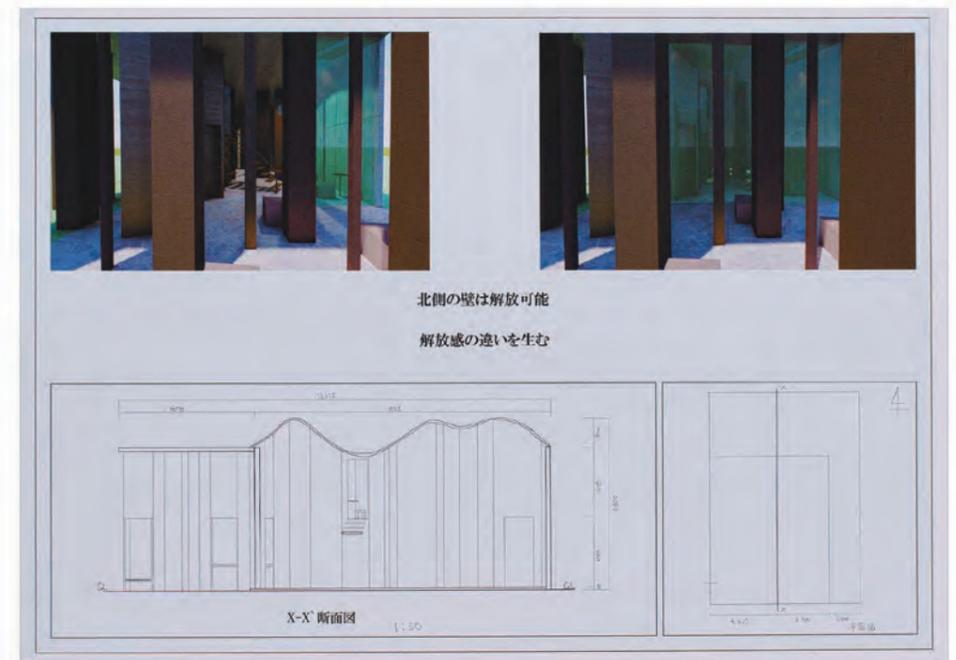
佐々木優真 4320120
Yuma Sasaki



一如 幾何学的な図形の組み合わせから生まれる独立した空間をコンセプトに設計した。わずかな高低差による印象の違い、自然物と人工物の対比を楽しむ。空間同士を行き来する際に高低差を設けるようにし、より違いを感じられるようにした。弧を描いた壁で覆っている空間は、床としても腰掛けとしても機能する。カフェ空間の窮屈・不便性と、テラス空間の開放感のコントラストから生まれる感情の動きを大切にしている。面積においても対称性を重要視しており、曲線によってちょうど2つに分断された空間が広がる。

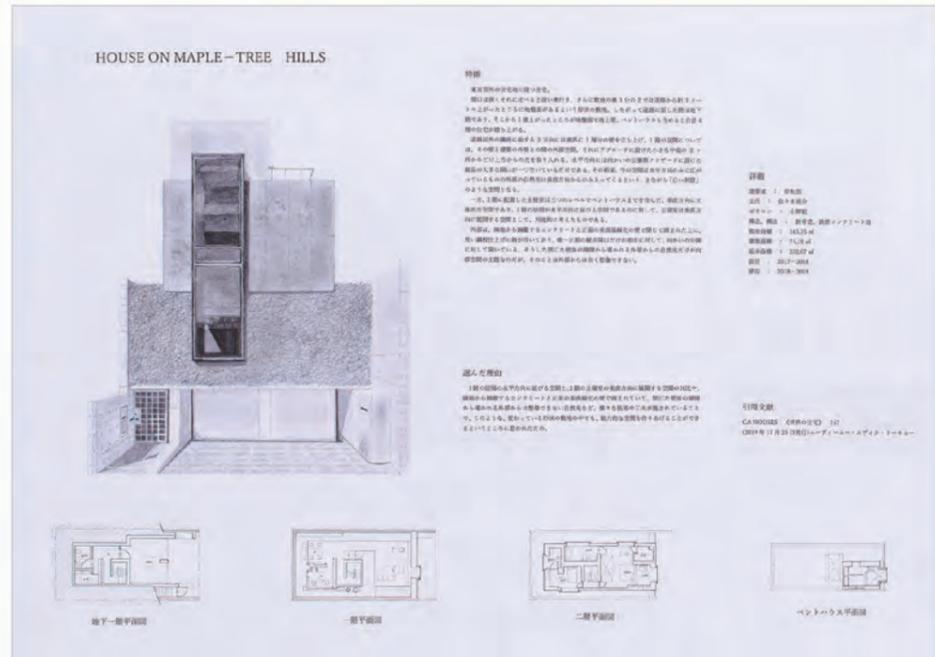


本山敦崇 4320238
Nobutaka Motoyama



小課題「住宅をさがそう」

デザインを学ぶ効果的な方法の一つは、優れた作品をたくさん見ること、そしてそれを手で描いてみることです。この課題はそのためのトレーニングであるとともに、次の課題「住宅」のための事例研究も兼ねています。

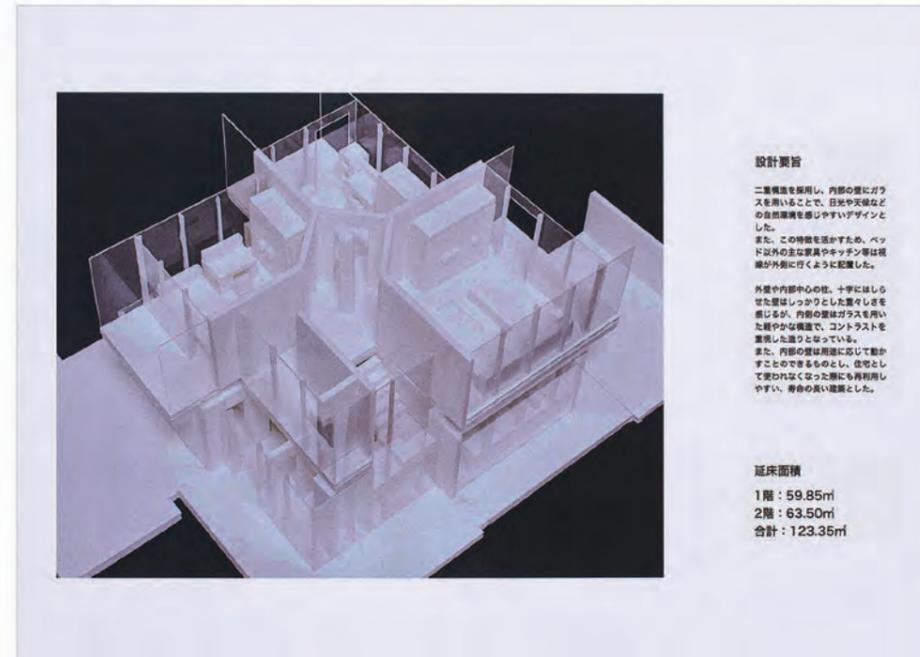


福田涼太
Ryota Fukuda
4320136

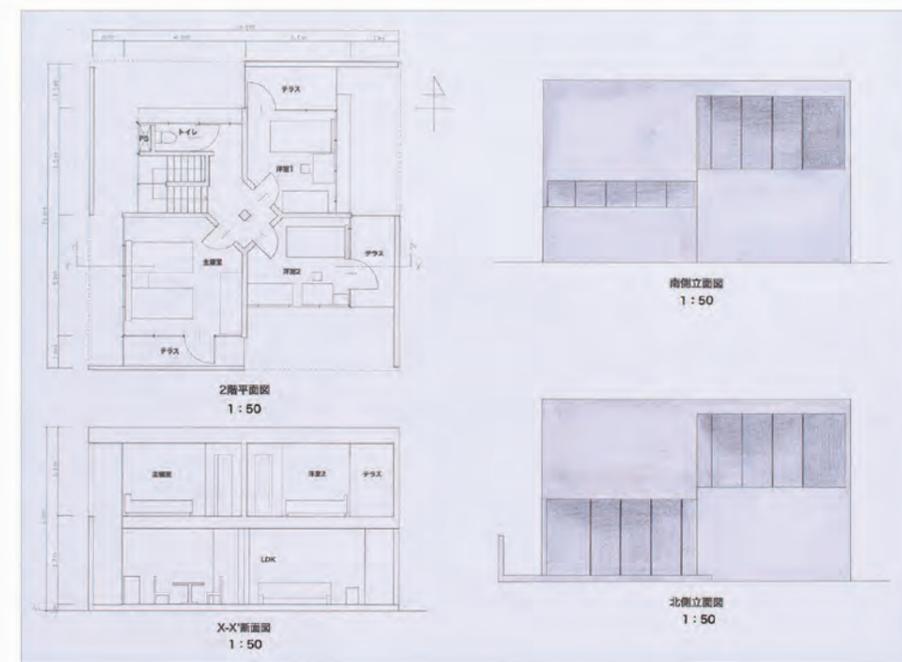
住宅

現代人の生活にふさわしい魅力ある住まいの設計。敷地は東西14m×南北18m。北に車道、南にプレイロットと遊歩道が隣接。周囲は閑静な住宅地。家族構成は夫婦と子供二人（10代の長男、長女）。

秋山果澄
Kasumi Akiyama
4320102



井上洸平
Kohei Inoue
4320205



これは、趣味や日常生活、あるいは将来の仕事のためにデザインを学ぶための建築です。(ファッション、インテリアの2コース。2年制)。デザインの勉強にふさわしい雰囲気のキャンパスと学校生活を楽しめるような場を留意してほしい。設計にあたっては次のことに留意してほしい。 ①授業ばかりでなく、課外での学習・休憩など、学生の活動・動きを考えた建築の提案。(内部空間のほか、校庭など屋外の場のあり方、内部とのつながり方など) ②校舎全体が円滑に機能するような各空間の配置の検討。(教室群、演習室、教員室、図書室、管理用諸室、休憩・移動空間、屋外の居場所など、相互の位置関係) ③敷地周辺の環境との関係や住民に開かれた建築の提案など。

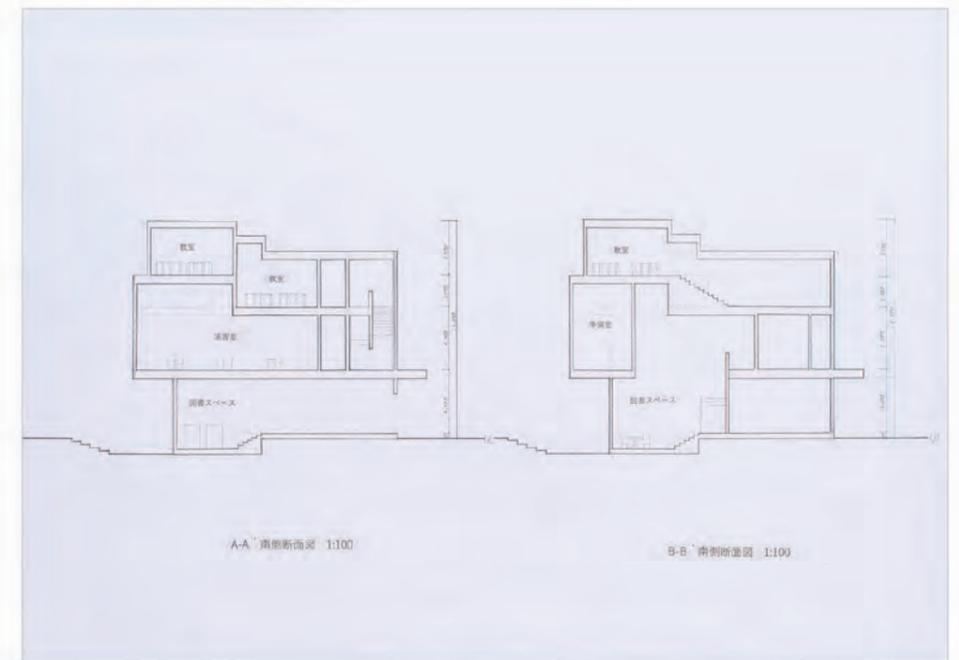
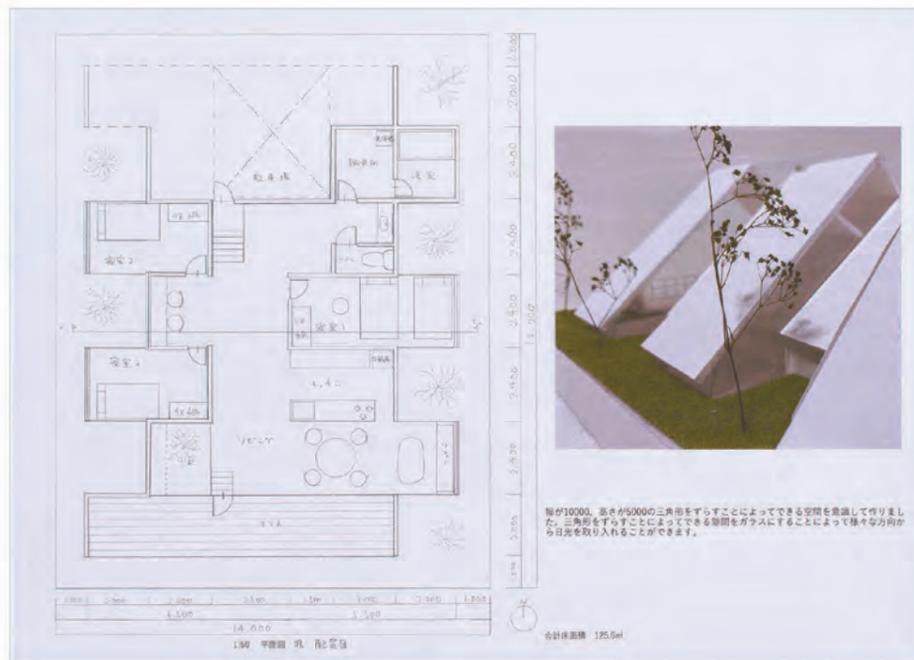
デザイン・スクール

住宅

木村凌雅
Ryoga Kimura
4320214



湯田 葵
Aoi Yuda
4319136



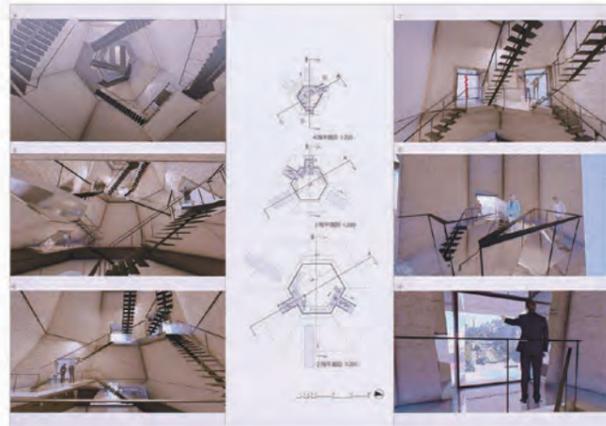
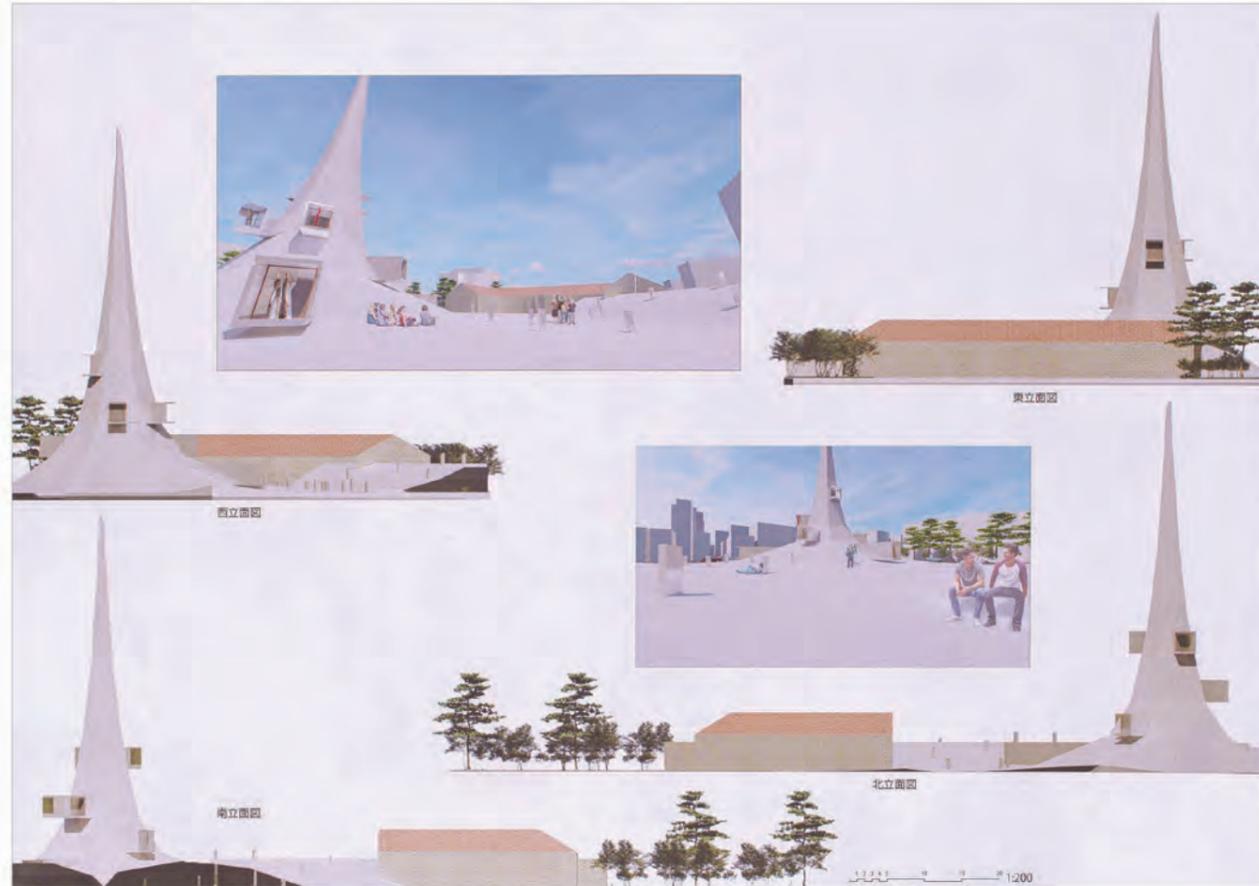
アート+建築=X

アートと建築について考えてみよう。

アートという言葉からは、芸術や美術とは異なる印象が伝わってきます。アートは、芸術や美術と言葉の意味することは同じとは言え、あまり堅苦しい印象はなく、比較的人々にとって身近な存在になっています。現在の都市空間の中には、表現手段は多様なながらもアートは満ち溢れています。このようなアートを建築と組み合わせるとどうなるでしょうか。既存のビルディングタイプからは、美術館が想像させられます。しかし、既存の美術館は、展示された芸術や美術作品を「見る」という行為が中心になり、展示空間では、学芸員などの管理者側の視線によって、作品との間に距離感を生じさせています。今回の課題では、芸術や美術に限定せず、人々にとって身近な存在であるアートと建築の関係性を模索しながら、今までの美術館とは異なる建築を設計することを目的としています。アートと建築に関しては、表現媒体としての共通性がありますが、それぞれの目的性は決して同じではありません。時間軸を中心に考えると、建築はアートより恒常的なもので、長い時間に耐えることが要求されると考えられます。しかしながら、現代社会においてはアートと建築の境界線は必ずしも明確ではありません。アート+建築=X、このXを提案して下さい。

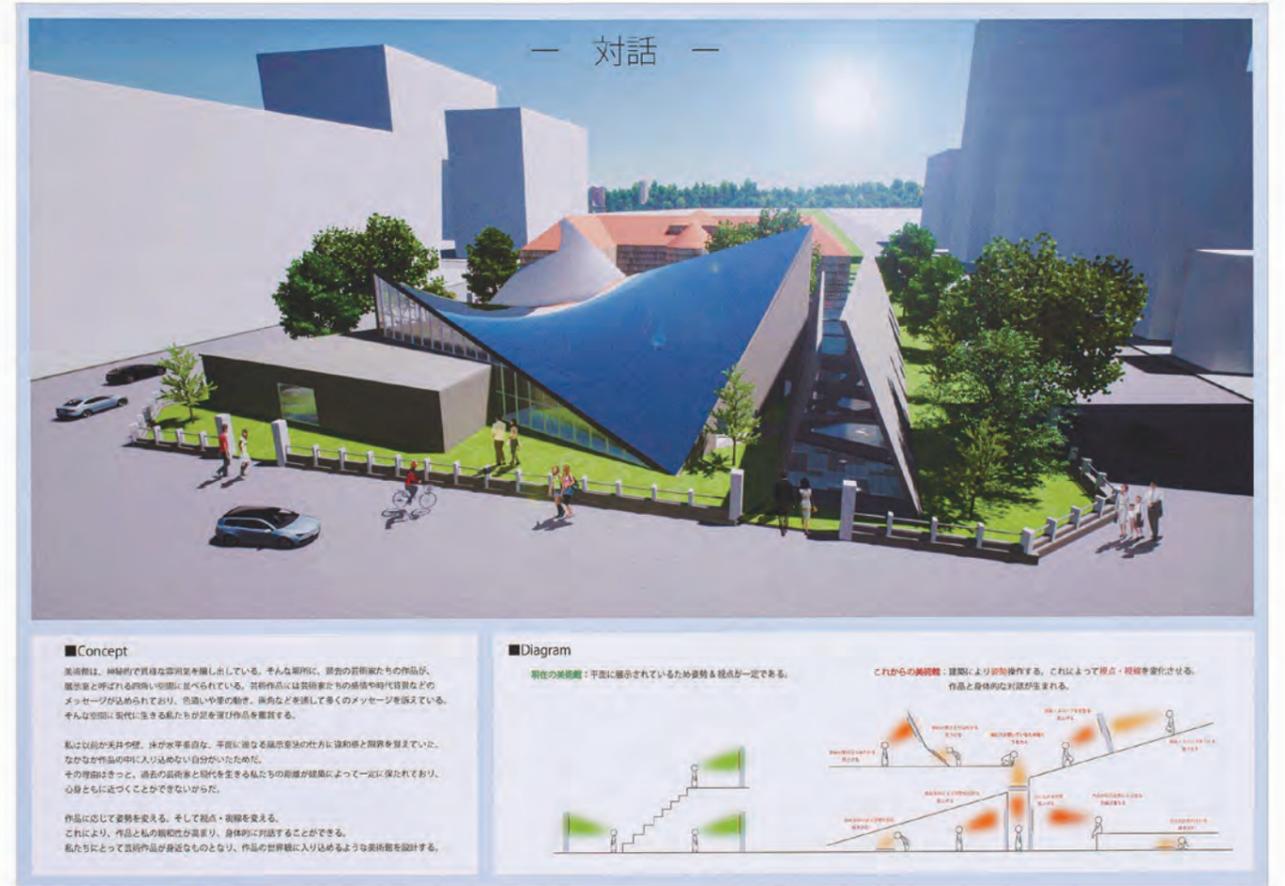
大畠悠介
Yusuke Ose

4319205



渡邊智帆
Chiho Watanabe

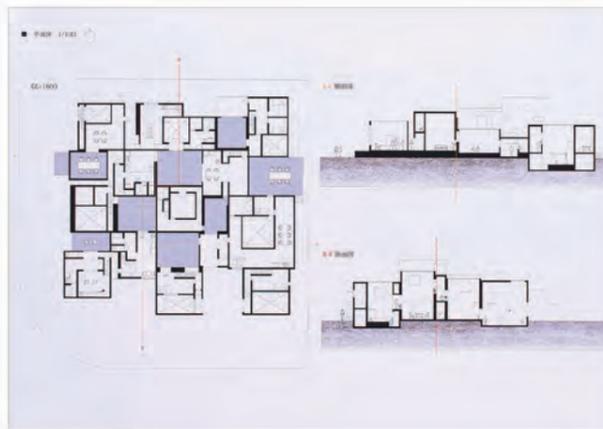
4319236



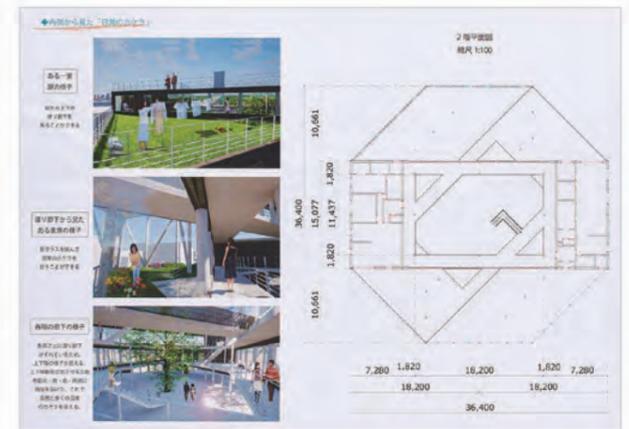
電車通りの「みんなの家」

「いえ」は生活のよりどころです。したがって、「いえ」は生活者の意思や好みが反映し、所有する敷地の中では生活者の自由が保障されています。しかし、「まち」は違います。「まち」は、様々な好みを持った人たちが共有する空間です。「まち」の本来な目的性は、人々の多様性を受け入れるところにあります。複数の世帯が集まって住む共同住宅は、「いえ」と「まち」の間に位置している建築です。したがって、共同住宅は、個人の住む空間の快適性を追求することも大切ですが、「まち」との関わりを意識することも大切になってきます。しかし、現在の既存の共同住宅（マンションやアパート）は、均質化した住戸が反復しているだけで、「いえ」と「まち」の間にある魅力的な共有空間が与えられていません。その結果、「いえ」と「いえ」の交流、そして「まち」との交流が広がらないのが実情です。今回の課題、電車通りの「みんなのいえ」は、このような観点から、「いえ」と「いえ」、「いえ」と「まち」の間を考えることを主な目的としています。札幌の都心に住むことを前提にしながら、個人の快適な空間だけでなく互いの関係を意識できる空間として、集まって生活することができる魅力的な建築環境を提案してみてください。

塩野谷基悟 4319212
Kisato shionoya



渡邊智帆 4319236
Chiho Watanabe





1等賞

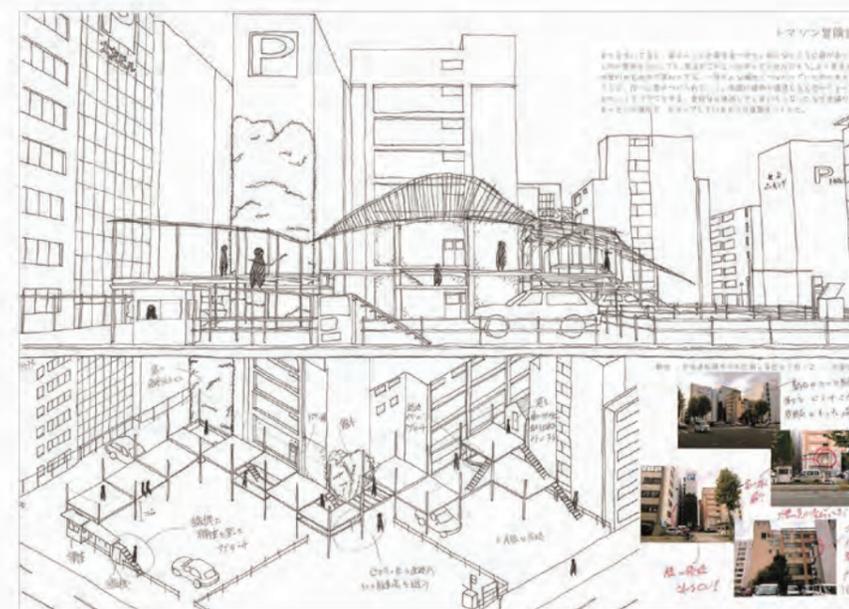
3年生 渡邊智帆
Chiho Watanabe
4319236

2年生 渡辺倫大
Tomota Watanabe
4320246



2等賞

大学院修士2年生 渡邊憲成
Kensei Watanabe
6320102



3等賞

大学院修士2年生 三浦光雅
Mitsumasa Miura
6320101

ポスター



応募 【テーマ】みんなで集まる秘密基地
【敷地】自由
【提出物】A3サイズ紙1枚
(平面図+設計意図を説明する断面・立面や内外観スケッチなど)
※パソコンを使用した作品・プリンターによる印刷物は認めません。

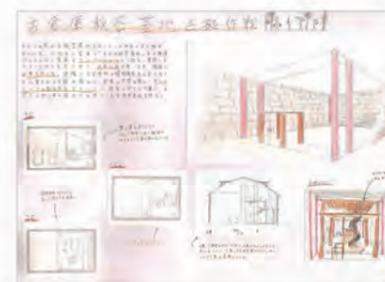
応募作品 A3用紙1枚に、配置図、平面図、立面図、断面図、アクソメトリックまたは投影図、パース、その他設計意図を説明するに必要と思われる図面や、模型写真、設計主旨などを各自選択して描いてください。特に具体的に場所の魅力が判る様に表現して下さい。以敷地を表現するために地図や写真データ等デジタルデータを使っても構いませんが、秘密基地を表現する手段は手書きでのドローイングまたは模型写真として下さい。CG やフォトショップを使ったコラージュ等のテクニックは学年差が出ますので不可とします。

提出期限 2021年10月11日(月)15時まで
豊平校舎・原井研究室(4号館502号)または研究室前
山鼻校舎・工学部事務室(2号館2階)

賞品 1等賞 1点 スツール 60 ブラックリノリウム
2等賞 1点 イッタラ×ミナヘルポネンガラスボード
3等賞 1点 フライパン 22cm 柳宗理
学年賞 3点 デザートスプーンとフォーク 柳宗理

注意事項 場所探しの際には(私有地への侵入等)人に迷惑をかけないように十分に注意してください。

学年賞 1年生 中村 龍
Ryu Nakamura
4321222

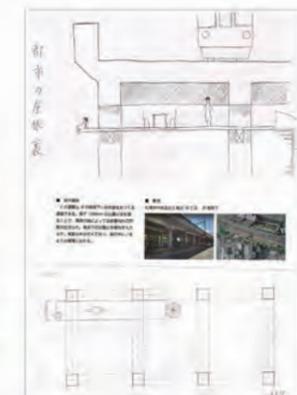


学年賞 3年生 塩野谷基悟
Kisato Shionoya
4319212



学年賞 4年生

4年生 高崎菜々美
Nanami Takasaki
4318117

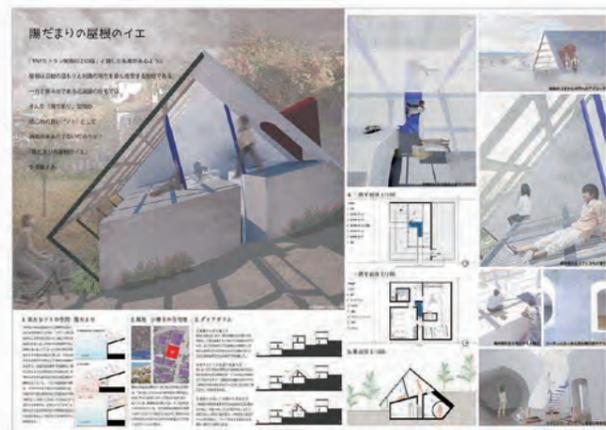




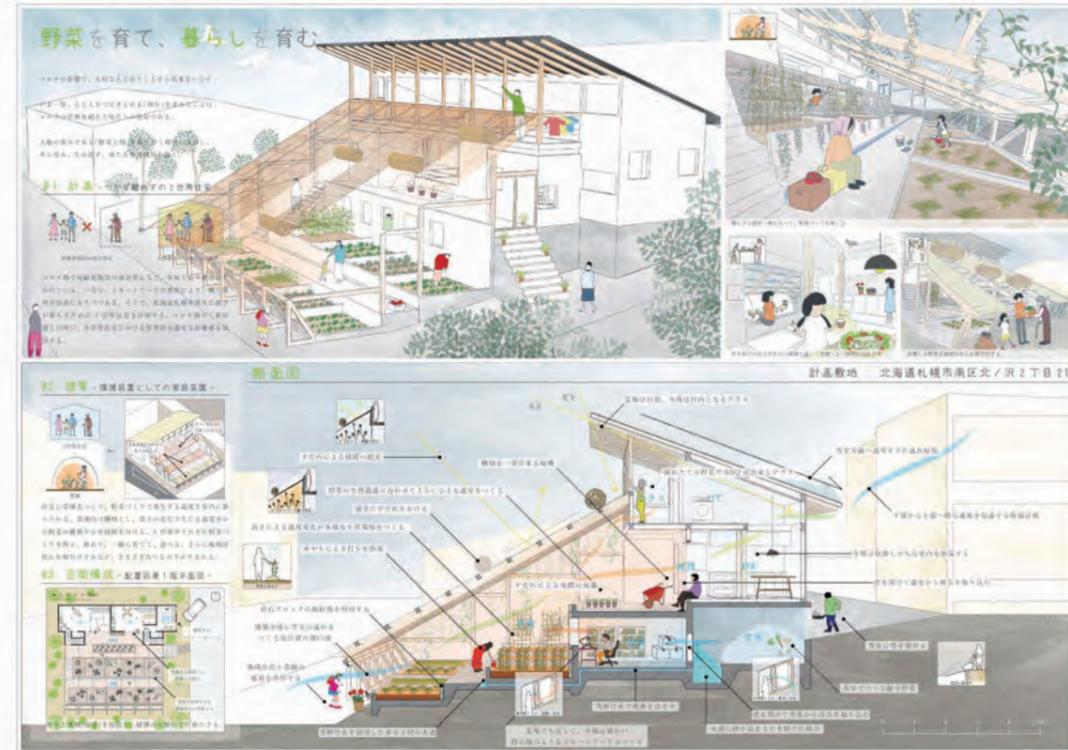
第46回「北の住まい住宅設計コンペ」最優秀賞
大学院修士2年生 三浦光雅 Mitsumasa Miura 6320101



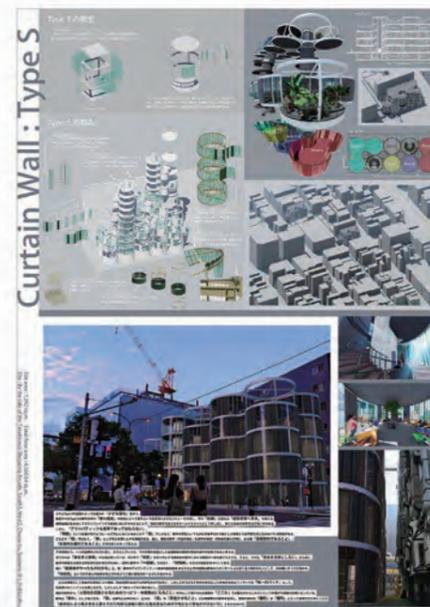
第46回「北の住まい住宅設計コンペ」優秀賞
3年生 塩野谷基悟 Kisato Shionoya 4319212



第46回「北の住まい住宅設計コンペ」奨励賞
大学院修士2年生 波邊憲成 Kensei Watanabe 6320102



第25回「ぐっとずっと。エネルギー住宅作品コンテスト」優秀賞(共同作品)
大学院修士2年生 三浦光雅 Mitsumasa Miura 6320101
大学院修士2年生 波邊憲成 Kensei Watanabe 6320102
4年生 高崎菜々美 Nanami Takasaki 4318117



「全国建築新人戦2021」100選入選
3年生 武者凌平 Ryohei Musha 4318134



「北海道建築新人戦 2021」山田紗子賞
3年生 武者凌平 Ryohei Musha 4318134

沼田町・JR石狩沼田駅舎
セルフリノベーション

町民と来訪者との出会いの場
を目指す取り組み

北空知の小さなまち沼田町。廃線が取り沙汰されているJR石狩沼田駅を舞台に、伝統ある夜高あんどん祭りのあんどんを接点に、町民と来訪者との間に会いを生むサードプレイスとして再生を目指した。現場では、地元の工務店や塗装業、タイル業など多くの技術者からアドバイスを受け、初めて手にする様々な道具に戸惑いつつ、自らのデザインした空間を実現した。

この現場経験を通じ、講義で得た知識が自らの実体験を経て身につく貴重な機会である。空間の創造は、クリエイティビティだけでなく、素材の種類・特性の理解と現場の人・技術があってこそ成立する現実を、身を以て実感する。



「行灯が繋ぐ駅」(採用案)



「行灯が繋ぐ駅」(採用案)



「蛍の光が灯るMarche」(次点案)



実測調査へ出発 町長にご挨拶 提案プレゼンテーションはコロナ禍のためオンライン



[1巡目] 具体化を検討するため駅舎と行灯とを詳細に実測 [2巡目] 地元工務店さんたちの指導で足場組み、下地塗装



[3巡目] 外観鉄骨部の下地塗装後に着色 既存の壁を隠す下地の製作 タイル業者さんと打合せ

沼田町・JR石狩沼田駅舎
セルフリノベーション参加学生

- 4318111 佐藤嵩太 Kouta Sato
- 4318113 佐藤貴慶 Takayoshi Sato
- 4318120 高橋奈緒 Nao Takahashi
- 4318123 鉄川 結 Yui Tetsukawa
- 4318125 鳴海侑晟 Yusei Narumi
- 4318137 山崎達矢 Tatsuya Yamazaki
- 4318138 山本 愛 Mana Yamamoto
- 4318215 塩谷拓希 Hiroki Shiotani
- 4318222 武山怜央 Reo Takeyama
- 4318238 山下陽平 Yohei Yamashita

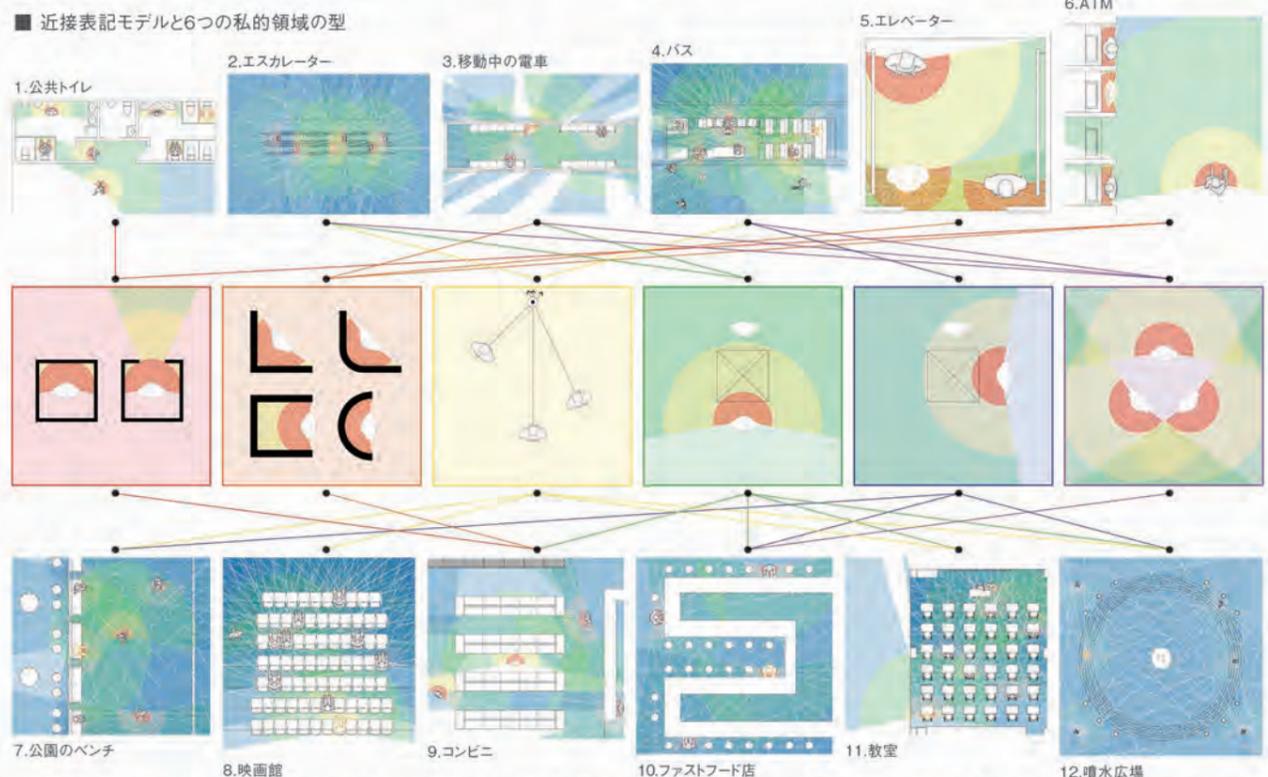


完成記念撮影

JR石狩沼田駅舎セルフリノベーション



住宅は公私の領域を物理的な仕切りによって分けている。例えば、専用住宅であればリビングが公で寝室が私、集合住宅やシェアハウスであれば共用部が公で専有部が私である。しかし、現在はCOVID-19の影響によってリモートワークが普及し、私的な寝室の中に公的な仕事場が出来るなど、物理的な仕切りでは対応しきれないほど公私の領域が入り乱れている。一方で、一般的に公共空間は物理的に仕切られた「私的な空間」が確保されていないため、利用者は人混みの中で自身の身体や視線を駆使して物理的な仕切りのない「私的な領域」をつくりだすのである。

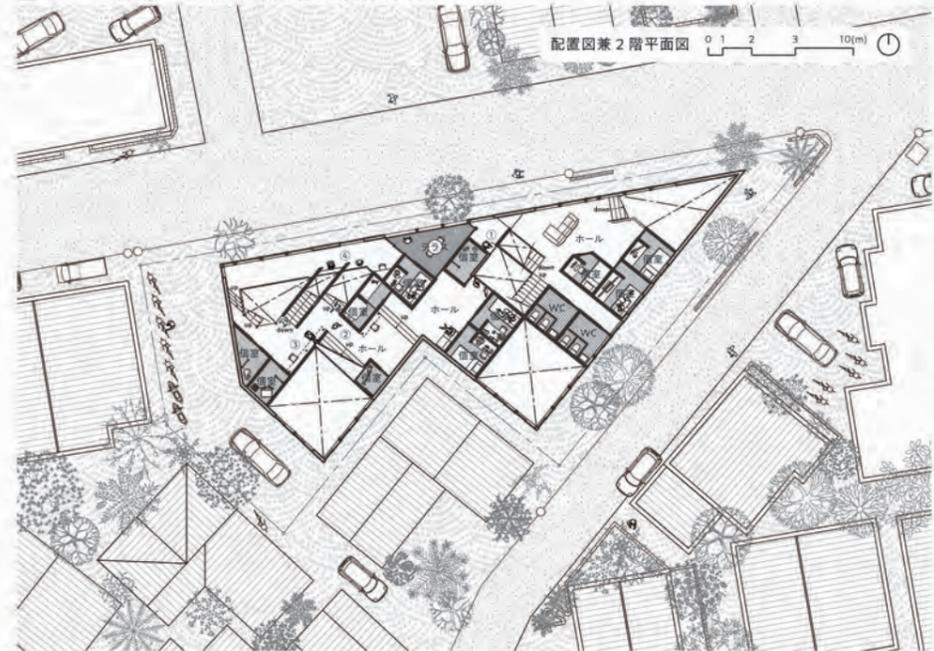


日常生活でひとりだと感じる場面を取り上げ、そこにどのようにして私的領域がつけられているのかを空間・近接表記モデルを用いて検証する。各場面に対する検証から私的領域のつくり方を類型化し、公的領域下に私的領域を内在するための「6つの私的領域の型」として提案する。



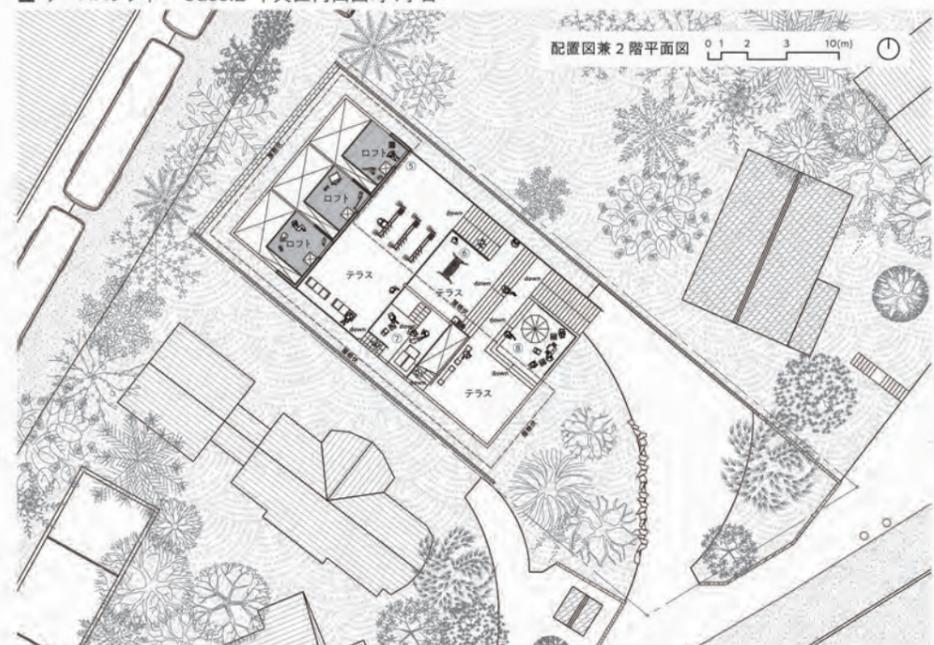
「近接表記モデル」と「6つの私的領域の型」に基づいて、公的領域下に私的領域を内在する住居形式のケーススタディを行う。ケーススタディはCase.1(都市部の住宅街)とCase.2(郊外部の住宅街)で行い、具体的な計画敷地の性質によって私的領域にどのような変化が生じるのかを考察する。

■ ケーススタディ -Case.1 東区北14条東5丁目-

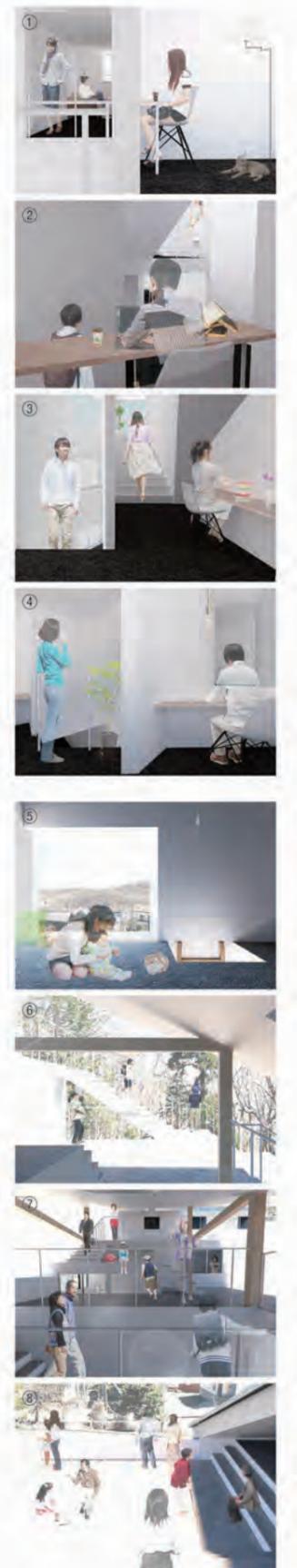


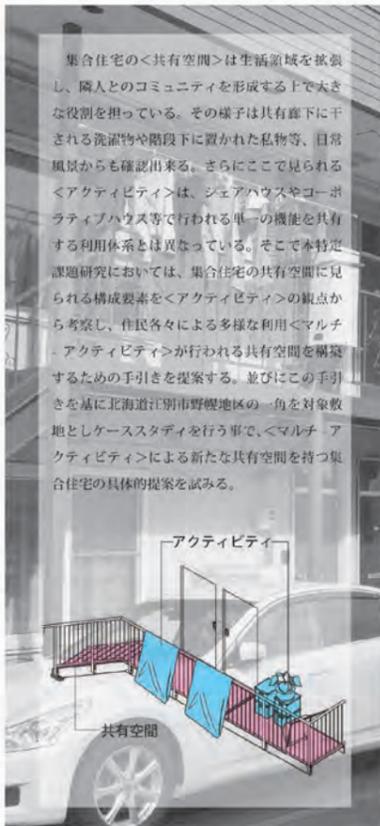
Case.1は札幌駅から徒歩約25分の距離にある敷地である。また用途地域制から、近隣商業地域に囲まれた第一種住居地域であり、最も駅に近い住居地域である。敷地周辺の世帯構成より、1人暮らしをする学生や単身労働者などをターゲットとした集合住居を設計する。キッチン、ランドリー、浴場、トイレを共用とし、最小限に抑えた住戸部分をずらしながら配置する。このようなずれがPocket型の私的領域となるなど、共用部と専有部の取り合いから私的領域が生まれている(例:平面図及びパースの①～④)。それぞれの私的領域はBufferやBack型の私的領域に習い、過度な視線の交錯を避けている。

■ ケーススタディ -Case.2 中央区円山西町4丁目-



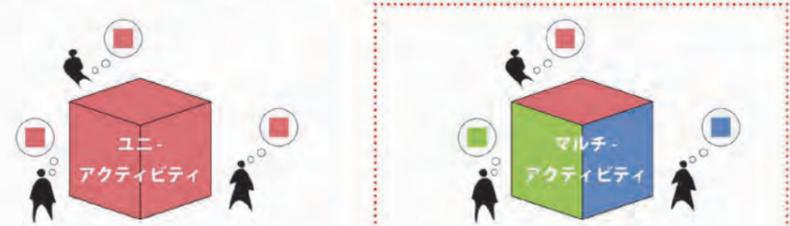
Case.2は大通公園から車で約12分の距離にある敷地である。また用途地域制から、第一種低層住居専用地域と北側斜線高度地区に属しており、さまざまな制約が設けられている。敷地周辺の世帯構成より、家族世帯や単身高齢者などをターゲットとした集合住居を設計する。必要最低限の生活行為は専有部で完結させ、頭上に広がる共用部が住民間のコミュニケーションを誘発する。敷地周辺の豊かな自然環境をSymbol型の私的領域に利用し、開放的な空間をつくりながら、過度な視線の交錯を避けている(例:平面図及びパースの①～④)。敷地の高低差に合わせて住戸を配置し、共用部にレベル差をつけるなど居場所を緩やかに分節している。





1. UNI or MULTI

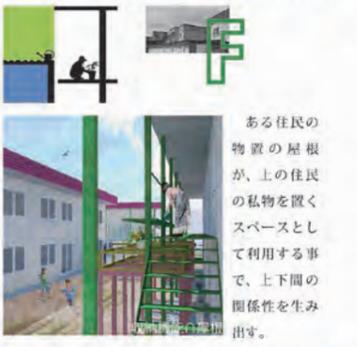
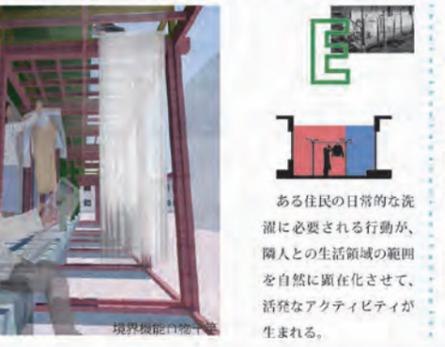
時代による世帯構成や技術の変化によって多様化する集合住宅の形式を調査・分類し、共有空間に見られるアクティビティの2種の性質を見出し、「ユニ・アクティビティ (uni-activity)」と「マルチ・アクティビティ (multi-activity)」と名付けた。



近年、注目されるコレクティブハウジングやシェアハウスの共有空間は共同の調理場や浴室と言った、全居住者に対して共有空間が一義的に利用される。このような性質を「ユニ・アクティビティ」と呼ぶ。

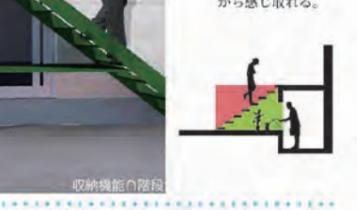
一方で住民によって異なるアクティビティとして利用する性質を「マルチ・アクティビティ」と呼ぶ。階段下の私物放置等が挙げられる。階段は上階への動線として利用されるが、下階居住者は階段下のデッドスペースを物置として利用出来る。

2. site



MULTI-ACTIVITY

3. SITE-PLAN



2021年度 北海学園大学 工学部建築学科 設計関連科目担当教員リスト (五十音順)
The list of professor taking charge of the subject about a design '21

4年生2学期 卒業設計	石橋 達勇 Tatsuo Ishibashi 岡本 浩一 Koichi Okamoto 米田 浩志 Hiroshi Yoneta	工学部建築学科教授 工学部建築学科教授 工学部建築学科教授
1年生1学期 造形演習I	原井 憲二 Kenji Harai 非常勤講師 梶田みなみ Minami Kajita	工学部建築学科教授 造形作家
1年生2学期 造形演習II	原井 憲二 Kenji Harai 非常勤講師 梶田みなみ Minami Kajita	工学部建築学科教授 造形作家
2年生1学期 空間デザイン演習基礎	岡本 浩一 Koichi Okamoto 非常勤講師 伊藤 千織 Chiori Ito 高木 貴間 Yoshichika Takagi	工学部建築学科教授 伊藤千織デザイン事務所 高木貴間建築設計事務所
2年生2学期 空間デザイン演習I	石橋 達勇 Tatsuo Ishibashi 非常勤講師 石塚 和彦 Kazuhiko Ishizuka 臼井 巧 Takumi Usui 大坂美保子 Mihoko Osaka 小倉 寛征 Hiroyuki Ogura 佐々木タ介 Yusuke Sasaki 佐野 天彦 Takahiko Sano	工学部建築学科教授 石塚和彦アトリエ office for design アーキラボ・ティアンドエム Sa design office gl/建築設計事務所ジーエル アトリエサノ
3年生1学期 空間デザイン演習II	石橋 達勇 Tatsuo Ishibashi 非常勤講師 赤坂真一郎 Shinichiro Akasaka 大島 亘 Wataru Oshima 海藤裕司 Yuji Kaito 竹林正彦 Masahiko Takebayashi 堀尾 浩 Hiroshi Horio 村國 健 Takeshi Murakuni 吉本考臣 Takaomi Yoshimoto	工学部建築学科教授 アカサカシンイチロウアトリエ アトリエオンドー級建築士事務所 日本設計札幌支社 日本設計札幌支社 堀尾浩建築設計事務所 アトリエブク 吉本考臣建築設計事務所
3年生1学期 建築デザイン論	米田 浩志 Hiroshi Yoneta	工学部建築学科教授
3年生2学期 空間デザイン演習III	米田 浩志 Hiroshi Yoneta 非常勤講師 赤坂真一郎 Shinichiro Akasaka 高木 貴間 Yoshichika Takagi	工学部建築学科教授 アカサカシンイチロウアトリエ 高木貴間建築設計事務所
4年生1学期 空間デザイン演習IV	米田 浩志 Hiroshi Yoneta 非常勤講師 石塚 和彦 Kazuhiko Ishizuka 濱口 芳郎 Yoshiro Hamaguchi	工学部建築学科教授 石塚和彦アトリエ 北海道日建設計

※科目の順番は作品掲載順による

2021年度 北海学園大学 工学部建築学科 設計作品集 第28号
HOKKAI-GAKUEN UNIVERSITY ARCHITECTURAL DESIGN WORKS '21 vol.28

発行日/2022年10月1日

発行/北海学園大学工学部建築学科
編集責任者/米田浩志
〒064-0926
札幌市中央区南26条西11丁目
TEL: 011-841-1161
FAX: 011-551-2951
URL: eng.hgu.jp/arc

編集・デザイン/エイチエス株式会社
〒064-0822
札幌市中央区北2条西20丁目1-12 佐々木ビル
TEL: 011-792-7130
FAX: 011-613-3700